

## Swift、ブロックチェーン実験にてトークン化資産の実現可能性を引き出す

- トークン化資産のグローバル移転を支える複数のブロックチェーンを接続する安全でスケーラブルな方法を実証
- 金融機関向けに、既存の安全なインフラを活用したトークン化資産移転単一エントリーポイントを提供
- Swift が推進する本実験は、細分化された金融システム全体において強固かつ安全な相互運用性を前進させる一環

ブリュッセル、2023 年 8 月 31 日 - Swift は、同社のインフラが複数のパブリックおよびプライベートブロックチェーン上でトークン化された資産価値の移転をシームレスに促進できることを示す、新しい実験結果を発表しました。本実験は、トークン化資産に関する市場の成長を遅らせかねないフリクションを取り除き、成熟するにつれてグローバルに展開できるという可能性を示しています。

トークン化は今始まったばかりの分野ですが、機関投資家の 97%は、トークン化が効率性向上、コスト削減、マイクロ投資の可能性拡大などを通じて資産運用に革命を、業界に利益をもたらすと期待しています。

しかし、トークン化資産が異なるブロックチェーン上で管理される場合、相互運用性の課題が浮上り、投資家や機関投資家が直面している問題のひとつは、それぞれが独自の機能と流動性に関する制約を持ちかねないということです。金融機関は各プラットフォームへの接続を個別に構築しなければならず、運用上の課題とコストが発生します。

Swift は、13 社の大手金融機関や市場インフラ、大手 Web3 サービスプラットフォームであるチェーンリンクと協力し、既存の安全なインフラを活用し、複数のネットワークへの単一エントリーポイントを提供することで、金融機関はトークン化資産の開発における運用上の課題や投資を大幅に削減することができました。

本実験は、新しい技術やプラットフォームが登場した際に、安全でグローバルな相互運用性を確保する Swift の広範な戦略の一環であり、Swift のインフラが中央銀行デジタル通貨（CBDC）や他のデジタル資産を、新規および既存の決済システムと相互接続する際に、どのように金融業界をサポートできるかという過去数年間の取り組みを基にしています。

Swift のチーフ・イノベーション・オフィサーであるトム・ツイシャッハ（Tom Zschach）は、次のように述べています。「断片化が進む中、相互運用性の確保は Swift が追求する主要な目標であり、トークン化がその潜在力を発揮するためには、金融機関は金融エコシステムとシームレスに接続できる必要があります。当社の実験は、既存の安全で信頼できる Swift のインフラが接続のための中心的なポイントとして提供され、トークン化の発展における大きなハードルを取り除き、その可能性を解き放つことができることを明確に示しています。」

### 実験概要

Swift は、オーストラリア・ニューージーランド銀行(ANZ)、BNP パリバ、BNY メロン、シティ、クリアストリーム、ユーロクリア、ロイズ・バンキング・グループ、シックス・デジタル・エクスチェンジ(SDX)、米国証券保

管振替機関（DTCC）を含む 13 の主要金融機関との協力による新たな実験結果を発表しました。本実験では、Swift ネットワークとイーサリアムのセポリア・ネットワークを安全に接続するため、エンタープライズ抽象化レイヤーとして使用されました。チェーンリンクの Cross-Chain Interoperability Protocol (CCIP)により元データ(ソース) と移転後のデータ（デスティネーション）のブロックチェーン間の完全な相互運用性を実現しました。

既存の Swift のインフラにおいて、金融機関が複数のブロックチェーンに接続するための安全でスケーラブルな方法を提供できることを実証したことに加え、パブリック・ブロックチェーンと相互運用するための技術的およびビジネス要件の理解を前進させました。本実験では、既存のシステムと無限のブロックチェーンとの間でデータを安全に転送するブロックチェーン間相互運用性プロトコルの価値も評価しました。

本実験はソリューションの設計と技術開発、データのプライバシーとガバナンス、運用リスク、法的責任に関する一連の検討事項を調査しました。同じパブリック分散型台帳技術ネットワーク上の 2 つのウォレット間、異なるパブリック・ブロックチェーン上の 2 つのウォレット間、さらにパブリック・ブロックチェーン・ネットワークとプライベート・ブロックチェーン・ネットワーク間で、トークン化資産の移転実験が行われました。

Swift は、金融コミュニティと協力し、トークン化資産を採用するための最も具体的な利用例を理解するために取り組みの優先順位を決定します。近い将来、最も有望な利用例は、非上場資産のセカンダリーマーケット取引とプライベートマーケットでの利用が予想されています。

報告書の詳細は[こちらのリンク](#)からご覧ください。

ANZ のバンキング・サービス・ポートフォリオ・リーダーであるナイジェル・ドブソン（Nigel Dobson）氏は、次のように述べています。「ANZ は、分散型ネットワークとトークン化の活用を積極的に模索しており、特に現実資産の取引など、十分なサービスが提供されていない市場において、テスト・アンド・ラーン方式（実験と学びを繰り返し最良のサービスに近づける手法）を採用しています。既存の金融市場インフラと複数のブロックチェーン間の相互運用性を確立することは、今後の普及のために不可欠であり、Swift のコミュニティと本実験に参加できたことは、もちろんのこと素晴らしいことです。」

BNP パリバの証券サービス部門クライアントデリバリー責任者である、アラン・ポシェ（Alain Pochet）氏は次のように述べています。「ブロックチェーンの数が増加する中、従来の技術的プラットフォームを接続し、ブロックチェーン間の相互運用性を確保することは、当行が克服しなければならない大きな課題となっています。この点で、今回の実験は、Swift がすでに確立している広範な接続性を活用できるという可能性を実証しました。」

クリアストリームのデジタル証券サービス事業開発・商業化責任者であるティロ・デレンバッハ（Thilo Derenbach）氏は、次のように述べています。「クリアストリームは金融市場インフラを提供する企業として、金融業界のデジタル時代への移行をサポートする重要な役割を担っています。最新技術と資産のトークン化に支えられたデジタル化の推進は、クリアストリームにとって重要なテーマです。このような共同パートナーシップや実証実験は、業界の革新的な取り組みを進展させると同時に、既存および将来のエコシステムの相互運用性のためのソリューションを提供します。」

DTCC のマネージング・ディレクターで戦略・イノベーション部門グローバルヘッドのジェニファー・ペーヴ（Jennifer Peve）氏は、次のように述べています。「DTCC は、金融市場インフラのプロバイダーとして、最も広範な市場参加者を接続し、革新的なソリューションがサイロ化することなく、最大限の価値を提供するためのソリューションを共同開発することに尽力しています。当社は、クロスネットワークの相互運用性が将来的にどのような意味を持つかを理解する上で有意義なステップを踏み出したこの重要な実験において、Swift と協力できたことを嬉しく思います。」

ユーロクリアのデジタル・アセット・エクセレンス・センターの責任者であるステファニー・ルルー（Stephanie Lheureux）氏は、次のように述べています。「他の金融市場インフラ（FMI）や機関と協力し、相互運用性の実験を通じて DLT の価値を明らかにすることを目的としたこの重要なプロジェクトに参加できたことを嬉しく思います。FMI として、イノベーションに対する当社のアプローチは、コストとリスクを削減するために継続的に効率化を推進することを目的として、エコシステムと協力してソリューションを開発することです。」

SIX Digital Exchange（SDX）のデジタル証券部門責任者であるアレクサンダー・ケッチ（Alexandre Kech）氏は、次のように述べています。「この相互運用性検証は、銀行や FMI が機関投資家向けビジネスでブロックチェーンの有望性をどのように実現できるか、つまり、発行者と投資家のためのマルチパーティで、規制されたグローバルなデジタル資産にとらわれない取引、決済、資産サービスの 24 時間 365 日のインフラを構築することを理解する上で極めて重要です。」

チェーンリンクの共同設立者であるセルゲイ・ナザロフ（Sergey Nazarov）氏は、次のように述べています。「世界のトップ銀行と大手市場インフラの両方が、銀行業界全体でデジタル資産の採用を拡大し、複数の異なるブロックチェーン技術を同時に使用しようと考えていることは、今や明らかです。Swift と 10 を超える大手金融機関、そしてチェーンリンクのコラボレーションは、チェーン間の相互運用性が、世界の金融システム全体でデジタル資産導入の次の段階を可能にするために不可欠であることも証明しました。Swift と CCIP を組み合わせることで、様々なブロックチェーンを横断するこの新しいレベルの相互運用性が、最大手の銀行や市場インフラでさえ最小限のリソースで可能になったことを実証することができました。」

### **国際銀行間通信協会（Swift）について**

Swift はメンバーによって保有されたグローバルな協同組合であり、安全な金融メッセージングサービスを提供するリーディングプロバイダーです。Swift は金融コミュニティに対し、通信に必要なメッセージングおよびその標準化を支えるプラットフォームのほか、決済ネットワークへのアクセスやシステムの統合・連携、認証、分析、規制コンプライアンス等にかかる製品およびサービスを提供しています。

Swift は 200 を超える国と地域における 11,000 以上の銀行、証券会社、市場インフラ、事業法人等をつなぐ通信プラットフォーム、および各種製品・サービスを提供しています。Swift 自体は資金を保有せず、顧客の口座を管理しないものの、グローバル・コミュニティのユーザーに対し、金融メッセージを確実に交換する方法を提供することで安全なコミュニケーションを可能にします。これにより、国内外の金融取引に加え、世界中の貿易と商取引を支えています。

Swift は信頼できるプロバイダーとして卓越した運用を絶えず追求し、コミュニティによるサイバー攻撃への対処をサポートします。また、コストを軽減し、リスクを削減し、業務の非効率をなくす方法を常に模索しています。当社の製品およびサービスは、コミュニティ内のアクセスと統合、ビジネス・インテリジェンス、参照データと金融犯罪コンプライアンスのニーズをサポートします。また Swift は国際・地域・国内レベルで金融コミュニティを取りまとめ、市場慣行の形成やスタンダードの定義、共通の関心分野に関する議論を推進しています。

Swift はベルギーに本社を置き、国際的なガバナンスと監督を通じて、組合体制の中立的かつグローバルな特性を発揮します。また、グローバルなネットワークを通じて、すべての主要な金融センターで積極的に活動を展開しています。

### **【報道関係者様からのお問い合わせ先】**

Swift 広報担当 ウェーバー・シャンドウィック トウ・未永

電話: (03) 5427-7411 / 7311

メール: [SwiftJapan@webershandwick.com](mailto:SwiftJapan@webershandwick.com)